北九州市立尾倉中学校　学校通信　第 216 号

尾倉（おぐら）

＜校訓＞
自主
創造
協力

令和4年9月1日(木)発行
校長　栗　原　博　巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

＜学校教育目標＞
豊かな心をもち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

＜目指す生徒像＞
① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
② 健康で明るく、思いやりのある生徒
③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

全九州中学校長研究大会より（保護者の皆様へ）

8月23日（火）・24日（水）の両日、福岡国際会議場で、九州の中学校の校長先生が集まって「第73回　全九州中学校長研究大会」が行われました。その記念講演が教務深い内容でしたので、保護者の皆様に紹介します。演題は「不揃いの木を組む～技を伝え、人を育てる～」、講師は鵤工舎（いかるがこうしゃ）の棟梁小川　三夫（おがわ　みつお）氏でした。

小川　三夫氏は、日本の宮大工、寺社建築専門の建設会社「鵤工舎」の創設者で、宮大工西岡常一の唯一の内弟子です。経歴は以下の通りです。

●

記念講演での小川　三夫氏の「ことば」を抜き出しています。私たち教師はもちろん、家庭教育でもハッとさせられる言葉ではないかと思います。参考にしてください。（棟梁と弟子の世界ですので、厳しい言葉も含まれています）下線部の言葉は、私が大切だと感じた言葉です。

○ 人は育てるのではなくて、自然と育つ。
○ 「教わる」という気持ちは甘えにつながる。「学ぶ」気持ちが生まれるまで待つ。
○ 遅く、遠回りをする子はこちらで待っていればよい。悩んで悩まず。
○ 無駄をさせ、無駄に気付かせ、無駄をなくす。（初めから合理的やり方を教え込まない）
○ 先輩が学ぶ雰囲気の中で後輩（弟子）は育つ。➡「捨て育ち」という言い方をしています。
○ 上に立つ人は教えてもらう姿勢をもつことが大切。（弟子から学ぶことが多いそうです）
○ （寄宿生活で）いろいろな人と触れ合うからこそ、いろいろなことが分かる。自己中心的な考えでは何も分からない。
○ （寄宿生活というものは）優しさと思いやりがなければ、長い間一緒に暮らすことはできない。木材を運ばせると、力のある先輩は自然と重い側を持つようになる。
○ 掃除をさせると、仕事に向かう姿勢が分かる。食事を作らせると、仕事の段取りと仲間への思いやりが分かる。
○ 器用な子は三角定規で10m先の三角を見ようとする。不器用な子は、10mの三角定規を作ろうとする。➡不器用が悪いのではない。「不器用の一心」
○ 四方八方から風を受ける木はまっすぐに育つ。四方八方から人を見る。
○ 整理整頓とは、頭の中を整理すること。
○ 外で生きていく能力のある子（器用で世渡りが上手い子）は、一つのことに集中できないこともある。
○ （弟子は）親方を外から見るのではなく、親方の中に入り込む。そうすれば、修業は楽になる。
○ 手道具（鋸、カンナ、ノミなど）を十分使いこなせる人は、電動器具を120%使いこなせる。電動工具しか使わない人は、電動工具の80%しか使いこなせていない。
○ 目と頭で覚えた知識ではなく、手と体で覚えた知識は「記憶」として残る。ただし、これには時間がかかる。
○ 伝統を引き継ぐということは、「嘘、偽りのないもの」を残すということである。
○ 何事にも「気付く」人間になれ。気付くようになると、そのあとに「なぜ？」と思うようになる。な「なぜ？」と思い始めて、初めて親方は指導してくれる。
○ 厳しさのない優しさは甘えにつながる。
○ 古代建築は、人間の錯覚を矯正しているから美しい。
○ ものごとの始まりは「知恵」、それを言葉にしたものが「知識」。自分のものにするには、「知識」に「知恵」が加わらないとダメ。「知恵」は限りなく湧いてくる。
○ 不揃いの木が、寺や塔の美しさを出している。